



昔の病気ではない結核

皆さんは「結核」についてどのくらいご存じでしょうか。昔の病気だと思っていないませんか。

我が国では、第二次世界大戦前から戦時中にかけて多くの人が結核で亡くなり、結核は国民病と呼ばれて恐れられています。しかし、戦後、我が国の生活は豊かになり、有効な薬がで、国や県の取組もあって、結核にかかる人は順調に減りました。

ところが、平成11年から3年連続で結核患者の数が増えました。これは43年ぶりの増加です。日本全体では平成12年、約4万人の患者が新たに発生しました。彦根保健所管内（彦根市・

無関心ではいられません「結核」

彦根保健所 保健婦 中島 恵理子

犬上郡・愛知郡）では平成7年以後、毎年約40人の患者が発生し、この数字は横ばいです。

感染と発症のしくみ

結核は、結核菌という小さな菌が引き起こす病気で、結核菌は、結核患者が咳やくしゃみをしたときに飛び散り、それを吸い込むことで感染します。

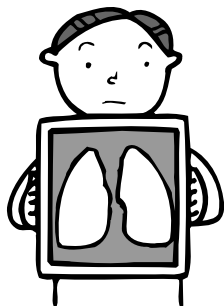
なお、症状が軽く、たんの中に菌を出していない場合は、ほかの人につうつす恐れはありません。

結核に感染しても、普通は免疫の働きで発病を防ぎます。感染した人で一生のうちに発病するのは、10人に1人くらいといわれています。感染して1年から2年で発病する場合と、何十年もたつて、からだが弱つているときに、眠っていた結核菌が

目をさまして発病する場合があります。発病すると肺は炎症を起し、ときには肺に空洞ができて、菌はどんどん増えます。

予防のポイント

- ・赤ちゃんへのBCG接種：抵抗力のない赤ちゃんに感染すると、命にかかわる重症の結核になりやすいため、早めにBCG接種を受けましょう。
- ・ふだんから定期の結核健康診断を：きちんと健診を受けていれば、万一結核を発病しても早い段階で分かります。
- ・症状が現れたら早めに受診：2週間以上のせきや微熱、たんが止まらないなどの症状が出るときは、結核の可能性があります。変だなと思ったら、早めに医療機関で受診することが重要です。



結核はつつる病気で、また、過去の病気でもありません。皆さん自身の問題として、予防に心がけましょう。

▼来月のテーマは「骨粗しょう症」

診察券が変わります

= お早めの交換にご協力ください =

市立病院



問い合わせ先 市立病院医事課 ☎6050 番内線 123 番

新しい診察券

表面の上部は紫色



診察券の大きさや材質は、現在のものと変わりません

現在の診察券

表面の上部は緑色



市立病院では、7月の開院を目指して移転新築に取り組んでいます。新たな医療情報システムを導入するに伴い、現在の診察券を新しく磁気化した診察券に交換していただく必要があります。

つきましては、4月1日(月)から、次のとおり診察券の交換をさせていただきます。ご協力をお願いいたします。

日時 4月1日(月)～同12日(金)(土・日曜日は除く)の午前9時～午後5時

場所 市立病院1階 総合案内横特設カウンター

4月15日(月)以降は、医事課窓口で随時交換します。お持ちいただくもの、現在ご使用の診察券(表面の上半分が緑色のもの)、保険証類